２０２０年５月臨時議会   討論                       ５月１３日

　日本共産党議員団を代表して、2020年度　寝屋川市一般会計補正予算（第3号）について、賛成の立場で意見を申し上げます。

　今回の補正予算は、新型コロナ感染症対策として、既存のＰＣＲ検査業務の増加に、ともない、医師会の協力を得て、寝屋川市独自で、検査体制を拡充するものです。
  これまで、検査の判断を保健所だけで行っていたものを、市内のかかりつけ医で、判断できることになり、保健所の業務の負担軽減と、ＰＣＲ検査がなかなかできないことによる市民の不安が軽減されることとを評価します。

　また、今、ＰＣＲ検査数が少なすぎることが問題になっています。
今回の拡充によって、既存の検査体制に加えて、民間検査機関を利用することで、検査数の増加が見込めることについても評価します。

　新型コロナ感染の収束については、行動制限による感染拡大の押さえ込みの時期と、経済活動とのバランスをとる時期があり、何回かの感染の「山」を繰り返しながら、本当の収束に向かうという、かなりの長期戦になると言われています。

　出口戦略、緊急事態宣言解除の大前提として、ＰＣＲ検査を抜本的に増やすことや、抗体検査の実施で、感染実態を把握することが重要とされていますので、さらに、国に対して検査体制の拡充とそのための予算措置を強く求めるものです。

   最後に、引き続いて　市長はじめ、保健所職員のみなさん、医療従事者のみなさん、市内の各施設で市民の命とくらしを守るために、奮闘されている全ての皆さんに、敬意を表するとともに、新型コロナ感染症対策の核となる、保健所の職員体制の強化を求めます。

　また、自粛による収入減で営業不安をかかえる市内の小規模商業者の方や、シングルマザー、単身高齢者、情報が届きにくい、さまざまな障害を持つ方々など、社会的に弱い立場の市民への配慮と支援を、しっかり進めていただくことをお願いし、私たちも、がんばる決意を申し上げ、討論とします。   　　以上です。